

題字  
大島文雄先生

# 人文

じんぶん



五福キャンパス人文学部棟前の「富山高等學校開校記念碑」碑文

## 総会記念講演

### 旧制富山高等学校と 新制富山大学の発足をめぐって

磯部 祐子・入江 幸二

富山大学人文学部の前身である旧制富山高等学校は、1923（大正12）年に開学されましたが、1925（大正14）年の蓮町における校舎完成を経て、1928（昭和3）年10月に開講式が挙行されました。その時の様子は漢文で記された「富山高等學校開校記念碑」（現在人文学部棟前に移設されている）に鮮やかに描かれています。まずは、碑文を読み解きながら、開学の喜び、創設者の思い、時代の精神に思いを馳せたいと思います。（磯部）

1949（昭和24）年に新制富山大学が発足して70年余りとなりましたが、当初からキャンパスの集中をめぐって議論があり、それは形を変えつつ現在にも影響しているといっただよいでしょう。次いで旧制富山高等学校をはじめとした前身校のあゆみと新制大学発足前後の経緯を中心に、大学の歴史を振り返ってみたいと思います。（入江）

この道より… 名誉教授 呉人 恵

### ヘルン文庫のことなど

中崎（中尾）圭子（中文 昭和61年卒）

### 富山の古書市、読書会案内

梨木伸浩（東洋史 平成14年卒）

研究室から／文化人類学分野 准教授 野澤豊一

### 富山大学大学院の改組について

研究室から／中国言語文化分野 教授 大野圭介

### 卒業生就職状況

第7回 人文学部のあゆみ 准教授 入江幸二

新刊案内

令和4年度総会、第9回人文の集い開催案内

## 富山大学人文学部同窓会

〒930-8555 富山市五福3190

電話：(076) 445-6143

FAX：(076) 445-6142

E-mail：  
alumni1@hmt.u-toyama.ac.jp

## いの道よろこぶ...

名誉教授 呉人 恵



ばならない。

退職したら何か他のことをやってみたくと思った日もあった。コリヤーク語を掘り起こす作業自体は面白いが、フィールドは遠すぎるし、話者もほとんど残っていない。一度リセットして自己を解放し、新しい対象に目を向けるのもいいのではなにかそう思ったのである。

この三月末をもって、富山大学を退職することになった。平成六年に北海道大学文学部助手の職を辞し、富山大学に転任してから早二十八年。まずは定年まで大過なく勤め上げることができたことを喜びたい。実りも挫折も喜びも悲しみも、すべてが詰め込まれた年月だった。

さて、問題はこれからの人生である。第二か第三か第四かはともかく、大学に來ない新しい日々が待っている。いつまで続くかは神のみぞ知るだが、それなりに、他に媚びず、己に嘘をつかない人生を生き抜かなければ

に、音声や文法に古い独特の特徴を残すとされる。

バスク語への想いは、遙か遠くの異質なものへの憧憬である。一方、奈良田方言は、私の生まれ故郷である山梨の方言だからである。長い年月を、コリヤーク語という日本語とはかけ離れた言語の研究に費やしてしまった。しかし、自分の母語である日本語やその方言については何も知らない。これではいけないと思った。

しかし、そうこうするうちにコロナ禍が始まり、バスクはるか奈良田に行くのも難儀な世の中になってしまった。折しも昨年四月からは、網走の北海道立北方民族博物館の館長を拝命することになった。この博物館では、東はグリーンランドのイヌイトから、西はスカンジナビアのサーミまで広く北方諸民族文化を対象として、その共通性と多様性に着目した展示や活動をおこなっている。世界的に見ても大変ユニークな博物館である。加えて、網走にはオホーツク文化の遺跡が点在する。オホーツク文化は、五〜六世紀頃、大陸から来て住み着いた北方民族の文化とされ、時に古コリヤーク文化とも関連づけられる。その意味でも、網走は魅力的な

場所なのだ。

いよいよ、バスク語だ、奈良田方言などと夢想している場合ではなくってしまった。コロナの狭間、授業の合間を縫っては博物館に通った一年だった。博物館という新しい世界での仕事は、とても新鮮で楽しい。とりわけ、考古学や文化人類学など他分野の専門を持つ学芸員の皆さんとの共同作業は、発見の喜びに満ちている。

たとえば「ただの石ころ研究会」といっても、考古学が専門の学芸員の種石悠さんと私の二人だけで勝手にそう思っているというだけの研究会なのだが。最近、博物館の季刊誌 *Arctic Circle* の館長エッセイにコリヤークの石ころ崇拜の話を書いていた頃、そこで遭遇するものは、それがトナカイであれ、植物であれ、住居であれ、道具であれ、その名前や由来をできる限り聞き取り書き取った。トナカイ毛皮製テントの中央に仕つらえた炉端に置かれた石に気づいたのは、そんな時だった。一見、何の変哲もない丸い石が数個置かれていた。名前を聞いてみた。すると、家の主人は、「ペゲックウン（灰の石）」という名前だけでなく、すべての石

をどうやって見つけたのか、それが家族の誰の石なのかを仔細に説明し始めたのである。そして、それらの石はその名の通り、炉を守っているのだと教えてくれた。

このエッセイの編集を担当しているのが種石さんである。お名前に「石」がついているのも偶然とは言えないと思えてくる。彼は網走周辺のオホーツク文化の遺跡からも丸い石がたくさん発掘されていて、動物を撃つための「石弾」だとされているけれど、自分はそうではなく「愛玩石」ではないかと思っていた。だとすると、コリヤークの石ころ崇拜とも繋がってくる可能性があるといるのである。大変驚いた。ツンドラであのなの変哲もない石が、考古学の知見とリンクすることがあるうとは！

かくして、私はバスクにも奈良田にも行かずに、これまでの道を歩いていくことになりそうだ。「この道より我を生かす道なし。この道を歩く」武者小路の言葉が妙に胸に響く。決して安易な道ではないけれども、それを歩き通すことが、私の人生のミッションなのかと思う今日この頃である。

(富山市在住)

# ヘルン文庫のことなど

## ―高校長としての二年間を終えて―

県立図書館館長 中崎(中尾)圭子(中文 昭和61年卒)



一度だけ、一冊の本をすべて書き写したことがあります。

ヘルン文庫に、中国のわらべ歌を英語に訳した本があると聞き、その中国語を日本語に訳して卒業論文にしようと考え、コピーの許可を申請しました。貴重な書籍なのでコピーは不可、手で写すならよいとのこと。その日から、ひたすら書き写す日々が始まりました。

この四十年ほど前の出来事をすっかり忘れていましたが、昨年、富山八雲会様から、二十周年記念セミナーで小泉八雲の作

品を朗読してほしいと依頼され、どの作品にしようかと考えているときに、ふと思い出しました。

私の父は大学一年生の頃、結核で講義に出られず、寮で寝ていることが多かったようです。が、ヘルン文庫にはよく足を運び、事務の方と顔見知りになり、本にハタキをかけたたりして

過ごしていたそうです。父はその方と仲良くなったと思っていました。が、ずいぶん後になつて、「昔、青白い顔をした学生が

毎日のようにやってきて、少々気味が悪かった」と言っておられたと伝え聞き、父は苦笑していました。私が書き写した『孺子歌圖 Chinese Mother Goose』という本にも、父がハタキをかけていたかもしれません。

さて、さきほど八雲会様から朗読を依頼されたとき書きました。朗読をいつの頃からか、朗読をし

てほしいとお声がかかるようになり、教員の仕事の傍ら、これまで高志の国文学館、水墨美術館、キラリ、北銀ギャルリ・ミレー、市町村の図書館、小学校や高校などで朗読をさせていただきました。一人でやることもありますが、ソプラノ歌手の野上聡子さん、ピアニストの奥田知絵さんと三人で「歌と朗読のマリアーージュ」と題して公演することも多いです。朗読の合間にはちよつとしたお話もするのですが、私が競技かるたのA級公認読手をしている話や実演は、皆さん特に興味をもつてくださいます。



このように趣味の活動に熱心な私ですが、この原稿を書いている三月現在の仕事は高校の校長です。大学卒業後は、県立高校で国語科教員として勤務し、県教委や教頭を経て、新湊高校

の校長を二年間、務めました。四月からは、県立図書館に館長として勤務します。私の校長生活は、新型コロナウイルス感染拡大による突然の二ヶ月間の休校からスタートしました。結局、二年間ずっとコロナ禍ではありませんが、新湊の地で生徒たちや先生方、PTAや同窓会、地域の方々と過ごした日々はかけがえないものになりました。

生徒たちには、「どんな環境にあっても、ささやかな喜びや幸せを見つけてみましょう」「真剣に生きることは大切だけれども、深刻になりすぎず、明るく軽やかに生きましょう」という話を繰り返し伝えてきました。

写真は、卒業式の日、野球部員たちと撮ったものです。シャッターを切る瞬間だけマスクを外



して撮った、みんなの顔がわかる貴重な一枚となりました。(全頁掲載を快諾してくれました)

先日、県立図書館に引継業務で訪れた際、お会いした方に、思いがけず「娘が新湊高校で世話になりました。三年生になったら、マラソン大会で校長先生と一緒に走れる」と娘はずっと楽しみにしていました」と言われ、涙が出そうになりました。毎年、マラソン大会で生徒たちと四・五km(女子)を走る際、三年生と一緒にスタートしていたので、そのように思っていました。

数年後に退職の日を迎えます。そこからの折り返しの人生は、表現活動や文化活動をしていきたいと考えていますが、教員生活のしめくりは文化の地、図書館という場所でした。

ヘルン文庫で『孺子歌圖』を写しながら、「これは八雲が手にした本だ」と心躍ったように、多くの皆さんにとっても、図書館が幸せな場所になるように、館長として尽力していきたいと思っております。

(富山市在住)

# 富山の古書市、読書会案内

梨木伸浩(東洋史 平成14年卒)



家をリフォームし活気に包まれています。現京都大学の総長やサイゼリヤの社長を輩出した水見に、何か他市とは異なる魅力があるのでしょうか。

そして掲題になります古書市ですが、昨年度はコロナ禍に負けじと富山駅で毎月開かれる事となりました。残念ながら中止となった月もあるのですが、人文学部OBであるデフォー子ど

もの本の古本屋も出店され、読書に縁の無い方にも訴求するイベントだったと思います。谷中・根津・千駄木では「一箱古本市」と銘を打ち、各人思い思いの一箱分の古書を持ち寄り、

屋号を決めて一日店主として立つイベントがあります。この主催者が出雲出身だった事と、水見の商店街に出雲出身者がいた

事が相俟って、水見でも開かれました。この一箱古本市で初期メンバーとして活躍され、東京から石川・富山へと転居されたのが、金沢のオヨヨ書林です。

読書会の方はと言いますと、

(水見市在住)

こちらは名古屋発のムーブメントです。指定の課題図書に参加者全員で読み込んでくる形式もあれば、参加者が各々選んできた本の感想を言い合うという形式もあります。二年前に富山県の読書会主催者が一堂に会するという企画を文苑堂豊田本店で行いまして、私もお手伝いさせていただきました。高志の国文学館の「Dive」、水見のヒラクと音本屋、考えるパンKOPPEなど、三十名超の方が集まりました。この会がご縁となり主催者同士のご結婚もあり、婚姻届提出日には市役所に駆けつける一幕もありました。

水見の魅力とは、と、ここまですべて書いてしまいますのは、他の都市の良い所を真似してきて、屈託も無く教えを乞うところに鍵があるのかもしれない。

県内で開かれております古書市、読書会に興味を持たれた方は紹介する事も出来ますので(一日店主になったりも)、お気軽にお声掛けください。「あの東洋史のー」と呼んでいただければ、大いに吃驚し、喜びます。尚、学恩に敬意を表すべく文中では全て敬称は教授に統一させていただきました。

## 研究室から 行動社会文化領域

社会文化コース  
文化人類学分野  
准教授 野澤 豊一

卒業生の皆さん、こんにちは！一九七九年度に創設された文化人類学研究室では、現在、藤本武先生と、私、野澤豊一が教育を担当しています。「文人(ぶんじん)」の通称はかつてと同じでしょうか。



令和3年度 富山大学 人文学部 人文科学研究科 学位記授与式

密度の薄い報告書・卒業論文にすることを私たちも覚悟していましたが、ところが、一昨年度も昨年度も学生たちは例年に遜色ないレベルで頑張りました。パンデミックのために教育現場は寂しくなりがちですが、学生たちのガッツには私たちも勇気づけられました。

二〇一九年九月二十二日には、本研究室創設四〇周年を記念した公開シンポジウムを開催しました。この登壇者が(教育や研究ではなく)実社会で活躍する四名の卒業生だったというのは、いかにも文人らしいと言えるでしょう。これらの報告に対して、かつて教鞭をとられた赤阪賢先生と末原達郎先生がコメントをなされ、討論の時間にはOB・OGたちからも関連に意見が出されました。この様子は本誌にも報告文が掲載されたので、ご存じの方も多いと思います。いま思うと、パンデミックのわずか数

カ月前にこのシンポジウムを開催できたことは幸運でした。次の五〇周年に向けて、私たちスタッフも学生とともに頑張ります。皆さんも健やかに過ごしてください！(学生たちの報告書や四〇周年シンポの記録は研究室ホームページでご覧いただけます。「富山大学文化人類学」とググってみてください。)

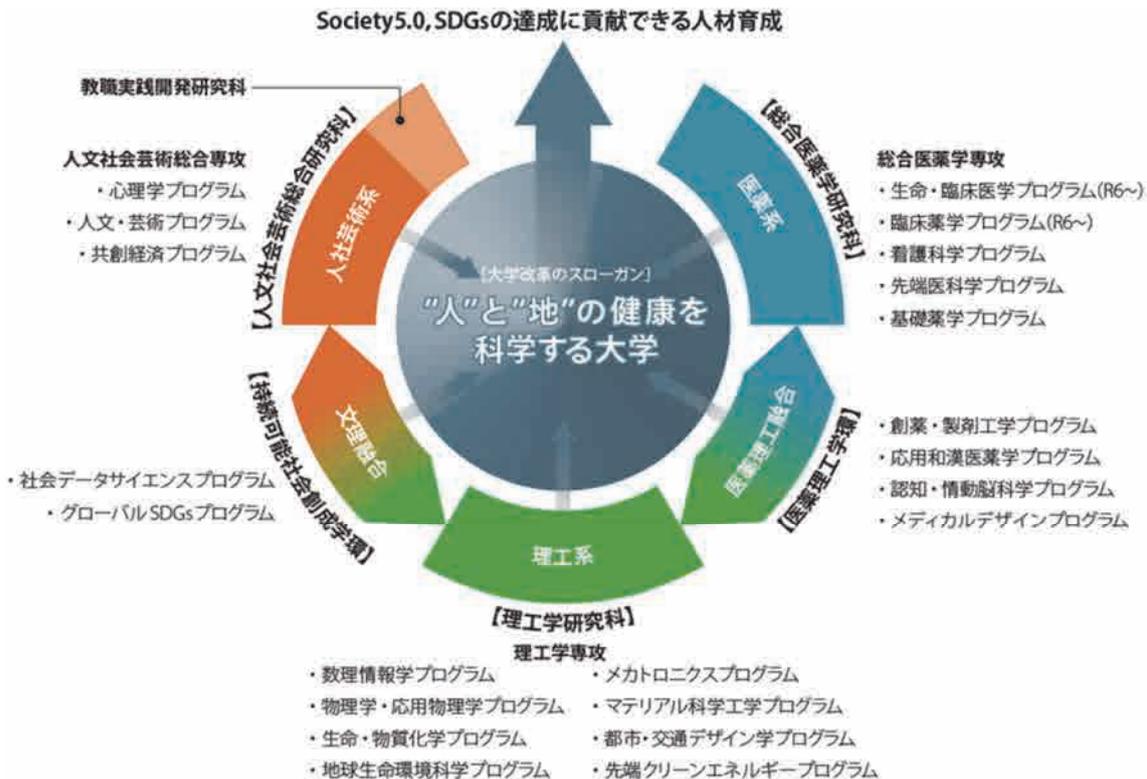
を縫っての調査ですから、正直、

# 富山大学大学院の改組について

富山大学はこれまでの各大学院を、「人文社会芸術総合研究科」「総合医薬学研究科」「理工学研究科」「持続可能社会創成学環」「医薬理工学環」の5つの組織へ改組しました。

各大学院の詳細については、大学ホームページ「大学院（令和4年度以降の入学生）」からご覧ください。

人文社会芸術総合研究科は、人文・社会・芸術に関わる諸分野の視点から「人」と「地」の健康を実現します。幅広い分野の基盤的能力を有し、人文、社会、芸術に関わる諸分野についての高度な専門的学識、高い倫理観と豊かな創造力、領域を横断した複眼的視野を備えることにより、新たな価値、文化、社会を創ることができる人材を養成します。



卒業生の皆さま、いかががお過ごしでしょうか。私が富山大学に赴任してから、早くも四半世紀が過ぎました。思い起こせば赴任時に中文を率いておられた伊藤美重子先生も、転出先のお茶の水女子大学を既に定年退職され、「光陰如箭」の思い一入れです。また中村雅之先生は愛知県立大学古代文学資料館にてご活躍中で、磯部祐子先生は人文学部を定年退職されましたが、富山大学理事として大学運営に携わっています。現在の教員は森賀一恵先生、梁有紀先生、そして国際文化論から中文に移られた齊藤大紀先生と大野とですが、惜しくも森賀先生が大学の方針で言語学分野に移られることになりました。中国語学に関する授業は今後も中文で担当されるとはいえ、直接に卒業研究をご指導いただくことがかなわなくなるのは残念なことです。

中国が近くて遠い国だった文化大革命の時代はもう遠く過ぎ去って、今では中国は多くの人々が互いに行き来する身近な国となりました。それに伴って中国語を学習できる場所も増大し、中国語教室やテレビ・ラジオ、さらにはネットも活用して独習する人も多くなっています。そうした中、大学で中国語文化を学ぶ意義は、単に中国語を身につけるだけではないはずです。中文では「中国語」以上の何かを学び得た人材を世に送り出すべく、日々模索と努力を続けています。その「何か」とは、文学や芸術を味わうセンスかも知れませんが、遥か昔へ思いを馳せながら、今を知るためにそれを生かす「温故知新」の態度かも知れませんし、卒業研究によって鍛えられた論理的・客観的思考かも知れません。あるいは在学中に気づけなくても、卒業後何年、何十年もたつてからふと学び得たものに気づくこともあるでしょう。これからの人生で、それらのおかげがない財産が生かされることを願ってやみません。



昨今はコロナ禍で日中間の人の行き来が途絶え、中国への留学も困難になるなど厳しい状況ですが、幸い中文は毎年多くの新入生を迎えています。オンライン授業にもよく順応する学生たちに感心しながら、大学で培われる学問的態度を大切にしていきたいとの思いを新たにしています。皆さまのご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

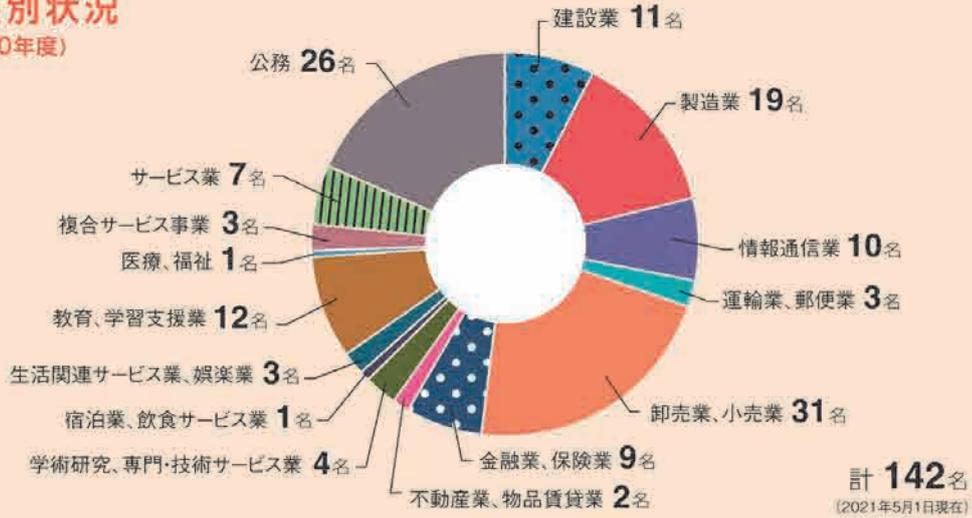
**研究室から**  
**言語文化領域**

**東アジア言語文化論コース**  
**中国言語文化分野**  
**教授 大野 圭介**

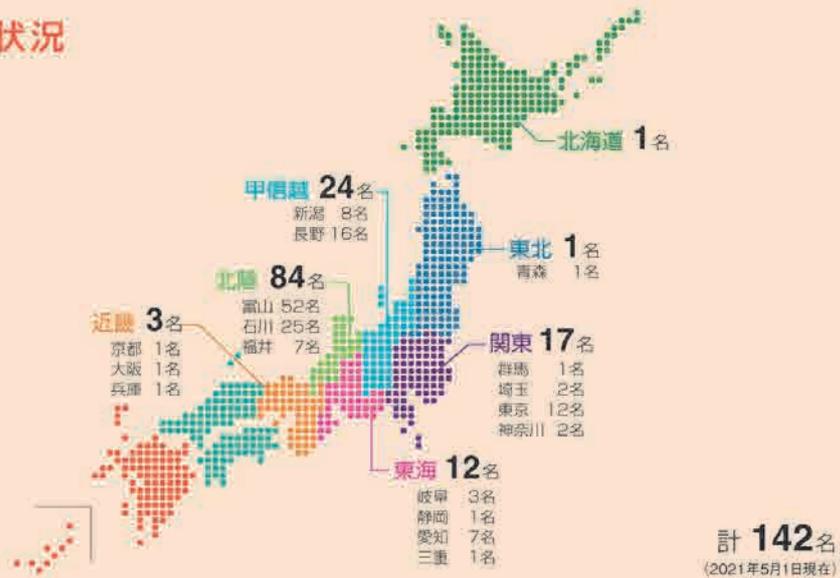
卒業生の皆さま、いかががお過ごしでしょうか。私が富山大学に赴任してから、早くも四半世紀が過ぎました。思い起こせば赴任時に中文を率いておられた伊藤美重子先生も、転出先のお茶の水女子大学を既に定年退職され、「光陰如箭」の思い一入れです。また中村雅之先生は愛知県立大学古代文学資料館にてご活躍中で、磯部祐子先生は人文学部を定年退職されましたが、富山大学理事として大学運営に携わっています。現在の教員は森賀一恵先生、梁有紀先生、そして国際文化論から中文に移られた齊藤大紀先生と大野とですが、惜しくも森賀先生が大学の方針で言語学分野に移られることになりました。中国語学に関する授業は今後も中文で担当されるとはいえ、直接に卒業研究をご指導いただくことがかなわなくなるのは残念なことです。

# 卒業生就職状況

## ◆ 業種別状況 (2020年度)



## ◆ 地域別就職状況 (2020年度)



## ◆ 主な就職先 (2016~2020年度)

<b>公務</b>	●富山県庁 ●富山・高岡・射水・黒部・砺波・南砺・氷見市役所 ●入善・朝日町役場 ●富山地方検察庁 ●福井・長野・山梨県庁 ●金沢国税局 ●関東財務局 ●金沢市役所 など
<b>製造業</b>	●(株)不二越 ●(株)スギノマシン ●三協立山(株) ●富士化学工業(株) ●三唱技研(株) ●(株)村田製作所 ●(株)チューエツ ●日本食研ホールディングス(株) ●ブルボン(株) など
<b>卸売業、小売業</b>	●アルビス(株) ●(株)大阪屋ショップ ●(株)米三 ●(株)メガネのハラダ ●トヨタモビリティ富山(株) ●石川日産自動車販売(株) ●(株)ニトリ ●(株)紀伊國屋書店 など
<b>金融業、保険業</b>	●(株)北陸銀行 ●(株)富山銀行 ●(株)富山第一銀行 ●富山・高岡・新湊信用金庫 ●(株)北國銀行 ●(株)北越銀行 ●野村證券(株) ●明治安田生命保険相互会社 ●(株)ゆうちょ銀行 など
<b>情報通信業</b>	●北日本放送(株) ●(株)ケーブルテレビ富山 ●(株)インテック ●福井新聞社 ●北國新聞社 ●NTTデータカスタマーサービス(株) ●三菱電機ビジネスシステム(株) など
<b>その他</b>	●北陸電力(株) ●日本海ガス(株) ●あいの風富山鉄道(株) ●トナミ運輸(株) ●(株)マイナビ ●総合警備保障(株) ●日本郵便(株) ●富山県・石川県・福井県・新潟県などの公立学校教員 など

# 人文学部のあゆみ

## 第七回

### ―新制大学設置時の資料―

富山大学准教授 入江 幸 二



本年四月、富山大学アーカイブでは「歴史資料館」をオープンした。立川健治名誉教授（二〇一六年三月退職）が先鞭をつけられた大学アーカイブは二〇一九年四月に設置されたが、それから三年経って資料館開設に至った。今後、同資料館で大学の歴史にかかわる資料を展示していくことになる。



今回はそれにちなんで人文学部の資料を一点紹介したい。た

だ、かつての文理学部（現在の共通教育棟前の場所にあった）から今の場所に学部が移った際、多くの古い記録が廃棄されたらしい。大変残念なことである。それでも、人文棟内には旧制高校時代、新制大学発足時の資料がいくらか残されている。

写真は、富山大学文理学部の「辞令簿」で、一九四九（昭和二十四）年七月三十一日付から一九五五年三月三十一日付の記録がまとめられている。内容は文字通り教職員の辞令で、日付、級号、氏名、職位が記録されている。たとえば最初のページは職員五人について、

昭和二十四年七月三十一日  
六級一号 雇 〇〇〇（印）  
〔中略〕  
富山高等学校兼文理学部勤務を命ずる

と記録されている。大学設置は五月三十一日だが、旧制高校がなくなるまでの一年間はこうい

った形で教職員は兼任していた。教員の例だと、

昭和二十四年六月三十日  
文部教官 〇〇〇（印）  
〔中略〕  
富山大学教授に補する  
兼ねて富山大学富山高等学校教授に補する

このように記録されている。旧制高校が新制大学に包摂され、まだ卒業していない高校生のために教員が二種の教育を行っていたことが窺える。なお工字部の前身である高岡工業専門学校についても同様で、「富山大学講師に補する／兼ねて富山大学高岡工業専門学校教授に補する」とされた教員もいた。

このほか、非常勤講師の時給（おおむね三〇〇円）や退職金の記載も数件ある。また、おそらく文理学部では最初の海外研修になると思われるが、一九五四年八月四日付でアメリカ出張を命ぜられた事例もあった（南カリフォルニア大学で現代アメリカ英語を研究）。

辞令の記録ゆえ基本的には無味乾燥な記述が続くが、子細にみれば当時の教育・研究環境が透けて見えてくるのではないだろうか。

## 新刊案内

人文学部ゆかりの方々の新刊を紹介します。

- 『大学的富山ガイド―こだわりの歩き方』  
富山大学地域づくり研究会編 大西宏治（教授）・藤本武（教授）責任編集、昭和堂、2020年10月刊
- 『開かれた身体との対話―ALSと自己物語の社会学』  
伊藤智樹（教授）著、晃洋書房、2021年1月刊
- 『持続可能な社会に向けての教育カリキュラム～地理歴史科・公民科・社会科・理科・融合～』  
井田仁康編、大西宏治（教授）ほか執筆、古今書院、2021年2月刊
- 『社会科教育へのケイパビリティ・アプローチ』  
志村喬編著、大西宏治（教授）ほか執筆、風間書房、2021年3月刊
- 『日本語文字論の挑戦 表記・文字・文献を考えるための17章』  
加藤重広・岡崎裕剛編、小助川貞次（教授）ほか執筆、勉誠出版、2021年3月刊
- 『顔身体学ハンドブック』  
河野哲也・山口真美ほか編、野澤豊一（准教授）ほか執筆、東京大学出版会、2021年3月刊
- 『地の理の学び方』  
菊地俊夫編著、鈴木晃志郎（准教授）ほか執筆、二宮書店、2021年3月刊
- 『書物・印刷・本屋 日中韓をめぐる本の文化史』  
藤本幸夫（名誉教授）編、勉誠出版、2021年6月刊

- 『光源氏に迫る 源氏物語の歴史と文化』  
宇治市源氏物語ミュージアム編、長村祥知（講師）ほか執筆、吉川弘文館、2021年7月刊
- 『中世武家庭園と戦国の領域支配 江馬氏城館跡』  
三好清超（院・歴史文化 平成26年卒）著、神泉社、2021年8月刊
- 『ミュージッキング：音楽は〈行為〉である』  
クリストファー・スモール著、野澤豊一（准教授）・西島千尋訳、水声社、2011年7月刊
- 『現代アメリカ社会を知るための63章【2020年代】』  
明石紀雄監修、大類久恵編著、赤尾ちなみ（教授）ほか執筆、明石書店、2021年9月刊
- 『図説世界の地域問題100』  
漆原和子・藤塚吉浩・松山洋・大西宏治（教授）編、ナカニシヤ出版、2021年12月刊
- 『音楽の未明からの思考 ミュージッキングを超えて』  
野澤豊一（准教授）・川瀬慈編著、アルテスパブリッシング、2021年12月刊
- 『富山人の「こころ文化」 県民カレッジ叢書115』  
米原寛（史学 昭和41年卒）、富山県民カレッジ編刊、2022年3月刊
- 『人文知のカレイドスコープ 富山大学人文学部叢書V』  
富山大学人文学部編、桂書房 2022年3月刊

### 総会、人文の集いの中止について

昨年度の人文学部同窓会総会および「人文の集い」は新型コロナウイルス感染症状況を鑑み、中止いたしました。

第一回理事会は六月に書面理事会として、総会の議決に代えるものとしました。第二回理事事は十月六日、第三回理事会は十二月十五日に開催し、新年度事業等について協議しました。

# 令和4年度 総会のご案内

日時 令和4年7月2日(土)  
 総会 午後1時30分～  
 講演 午後2時40分～  
 交流会 午後4時～ (会費無料)

場所 とやま自遊館  
 (富山市湊入船町9番1号 TEL076-444-2100)

講演：「旧制富山高等学校と新制富山大学の発足をめぐって」  
 講師：富山大学理事・副学長 磯部 祐子  
 富山大学人文学部准教授 入江 幸二

## 講演要旨

富山大学人文学部の前身である旧制富山高等高校は、1923(大正12)年に開学されましたが、1925(大正14)年の蓮町における校舎完成を経て、1928(昭和3)年10月に開講式が挙行されました。その時の様子は漢文で記された「富山高等學校開校記念碑」(現在人文学部棟前に移設されている)に鮮やかに描かれています。まずは、碑文を読み解きながら、開学の喜び、創設者の思い、時代の精神に思いを馳せたいと思います。(磯部)

1949(昭和24)年に新制富山大学が発足して70年余りとなりましたが、当初からキャンパスの集中をめぐって議論があり、それは形を変えつつ現在にも影響しているといつてよいでしょう。次いで旧制富山高等學校をはじめとした前身校のあゆみと新制大学発足前後の経緯を中心に、大学の歴史を振り返ってみたいと思います。(入江)

## 第九回人文の集い

講演 「韓国での映画のような21年間のストーリー」

講師：藤本信介

(比較社会 平成15年卒)

期日：十月二十九日(土)

午前10時～11時30分

会場：富山大学人文学部一階

第一講義室

概要：交換留学生として韓国に行つたのが日韓W杯前の二〇〇一年。「死ぬほど楽しい留学生を送るぞ!」と一年だけの予定が二十一年になるとは!そして夢にまで見た韓国映画の仕事に就けるなんて!あの日の自分は知る術もなく。人生の半分以上を過ごした韓国生活の話を中心に、世界中で爆発的な盛り上がりを見せている韓国映像コンテンツの話をお届けします。

終了後、十一時五十分より隣接の第二講義室で昼食会を開きます。講演は参加費無料ですが、昼食会は別途参加費が必要です。昼食会は会費二千円(学生五百円)。どちらか一方だけの参加も可能です。総会、人文の集いとも同窓会事務局へお申し込みください。同封ハガキもご利用ください。

## 学位記授与式 令和3年度



## 人文学部教員異動

定年退職(令和四年三月)

○奥村 讓 (イギリス言語文化)

○呉人 恵 (言語学)

○小助川貞次 (日本語学)

○大工原ちなみ

(アメリカ言語文化)

○永井龍男 (哲学)

○宮内伸子 (ドイツ言語文化)

退職(同)

○澤田哲生 (人間学)

採用(令和四年四月)

○鈴木拓朗 (心理学) 講師

○林 美希 (東洋史) 講師

教育科学系より異動(同)

○佐藤 徳 (心理学) 教授

○姜 信善 (心理学) 准教授

お詫び 43号5ページの「研究室から」にて掲載の、若尾正行先生のお名前は正しくは若尾政希先生でした。訂正してお詫びいたします。

令和四年三月二十三日(水)富山大学学位記授与式が富山市体育館で挙行されました。第一部は十時から、人文学部生が参加する第二部は午後一時から開催されました。一部、二部とも人文学部同窓会の米原寛会長が祝辞を述べました。

その後午後二時一五分よりカナルパークホテルにて人文学部の学位記授与式が執り行われました。同窓会主催の卒業祝賀会は昨年に引き続き中止しました。

押田(小林恵美子)国文学 昭和46年卒  
 令和2年12月11日

藏本 榮一(英文学 昭和30年卒)  
 令和4年2月27日

齊藤(西倉栄子)史学 昭和28年卒  
 令和3年7月13日

酒井 寛史(史学 昭和34年卒)  
 令和2年ご逝去

辻(久保泰穂美)ドイツ語 平成元年卒  
 令和2年8月15日

広田 博(英文学 昭和32年卒)  
 令和2年4月14日

藤田 正時(史学 昭和31年卒)  
 令和3年7月9日

水野 信利(英文学 昭和34年卒)  
 令和元年6月23日

横山 貴広(考古学 昭和58年卒)  
 令和2年ご逝去

斯波 辰夫(史学 昭和53年卒)  
 令和元年9月25日

## 編集委員

田中 史子 谷口 恵子  
 成瀬裕美子 廣瀬 裕一  
 山田 恵美 山藤 登  
 山本 孝一 村本 浩子

## 文化人類学同窓会のお知らせ

富山大学文化人類学研究室HPにニューズレター『文人』No.2を掲載し、No.3もまもなく掲載予定です。

https://www.hmt.u-toyama.ac.jp/bunjin/

お問い合わせ先：穴場理(82年卒) jinruiyoyama@gmail.com  
 廣田(檜垣)まり(93年卒) hari4mapenzi@yahoo.co.jp

## 年会費の報告

年会費納入状況をお知らせいたします。令和3年6月から令和4年3月まで233人の方から233,000円の年会費を納入していただきました。また12名の方から終身会費120,000円を納入していただきました。ご支援ご協力厚くお礼申し上げます。